

あいち病害虫情報 最新情報

平成30年9月14日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

作物の病害虫

水稻において、トビイロウンカが7月下旬の巡回調査で確認されました。本虫が多発生すると坪枯れ等の被害が発生する可能性があります。ほ場をよく観察し、今後の発生に注意して下さい。

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数はほぼ平年並ですが、名古屋地方気象台9月13日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種にとって好適な条件となる可能性があります。ダイズでは、被害粒の発生を抑制するために、開花後30日頃を目安に防除を徹底しましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を実施しましょう。

県内のダイズほ場において、シロイチモジヨトウの発生を確認しています。本種はふ化後しばらくは集団で生息し、齢期が進むにつれて次第に分散します。そのため、幼虫の寄生を確認したら、速やかに防除を行きましょう。

果樹の病害虫

豊橋市に設置したチャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数が8月第5半旬以降急増しました。新城市においても、やや多くなっています。今年はヒノキ球果の着果量がやや多いため、今後も平年より多くの果樹カメムシ類が果樹園に飛来し、被害が発生するおそれがあります。防除対策等詳しくは、本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

モモせん孔細菌病の8月下旬調査における発生量は平年と比較してやや多い状況です。また、台風21号の通過による強風を伴う雨があったため、さらに感染が拡大していると考えられます。本病原菌は枝や落葉痕部の組織内で越冬し、次作の伝染源になります。8月17日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を必ず実施しましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。また、り病落葉は翌年の重要な伝染源です。そのまま放置せず、ほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。

シロイチモジヨトウの発生多い！

キャベツでは、9月上旬の巡回調査において、シロイチモジヨトウのほ場における寄生株率が過去10年で最も高く、フェロモントラップにおける誘殺数も多い状況が続いています。名古屋地方気象台9月13日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、今後も多く推移すると予測します。ほ場での発生に注意し、防除を徹底しましょう。防除対策等は、8月31日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、長久手市と豊田市に設置したトラップではやや多い状況です。ダイズほ場で白変葉や幼虫を確認したら、8月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考に防除を行いましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、安城市のダイズほ場、豊川市のキクほ場に設置したトラップではやや多くなっています。ダイズではこれからの時期は子実も加害されます。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。防除については、8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数及びキャベツほ場での発生量は平年並です。ほ場をよく観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

台風21号による激しい風雨がありました。台風などの激しい風雨で被害を受け傷ができると、黒腐病などの細菌性病害が発生しやすくなります。事前に農薬散布や排水対策を行いましょう。台風通過後は速やかにほ場の排水を図り、農薬を丁寧に散布しましょう。

名古屋地方気象台9月13日発表の1か月予報によると降水量は平年並か多い見込みです。細菌性病害は降水量が多いと発生量が増加します。また、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生量が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ぽで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴのハダニ類は、8月下旬の育苗ほにおける調査で発生量が多いほ場が散見されました。本ぽにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820